

平成21年3月期 第2四半期決算短信

平成20年11月13日

上場取引所 JQ

上場会社名 小倉クラッチ株式会社

コード番号 6408 URL <http://www.oguraclutch.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 小倉 康宏

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役

(氏名) 河内 正美

TEL 0277-54-7120

四半期報告書提出予定日 平成20年11月13日

(百万円未満切捨て)

1. 平成21年3月期第2四半期の連結業績(平成20年4月1日～平成20年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
21年3月期第2四半期	25,401	—	541	—	525	—	157	—
20年3月期第2四半期	25,599	△2.9	528	△55.3	741	△41.3	13	△97.6

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
21年3月期第2四半期	10.48	—
20年3月期第2四半期	0.88	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
21年3月期第2四半期	49,442	18,164	36.1	1,190.75
20年3月期	46,775	17,733	37.4	1,163.37

(参考) 自己資本 21年3月期第2四半期 17,864百万円 20年3月期 17,463百万円

2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
20年3月期	—	0.00	—	14.00	14.00
21年3月期	—	0.00	—	—	—
21年3月期(予想)	—	—	—	12.00	12.00

(注)配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成21年3月期の連結業績予想(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	45,740	△7.7	60	△89.1	△250	—	△690	—	△45.98

(注)連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 有

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無

新規 一社(社名) 除外 一社(社名)

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

[(注) 詳細は、3ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。]

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更)に記載されるもの

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 無

[(注) 詳細は、3ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。]

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 21年3月期第2四半期 15,533,232株 20年3月期 15,533,232株

② 期末自己株式数 21年3月期第2四半期 530,234株 20年3月期 522,454株

③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) 21年3月期第2四半期 15,007,862株 20年3月期第2四半期 15,014,896株

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 平成20年8月11日に公表いたしました連結業績予想は、本資料において修正しております。

2. 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定および業績予想のご利用に当たっての注意事項等について、および上記1に係る業績予想の具体的修正内容は、2ページ【定性的情報・財務諸表等】3. 連結業績予想に関する定性的情報をご覧ください。

3. 当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)および「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しています。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しています。

定性的情報・財務諸表等

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結会計期間におけるわが国経済は、原油・資源価格の高騰等による物価上昇懸念から個人消費が減少するとともに、企業に設備投資を抑制する動きが見られるなど景気は弱含みの中推移しました。また、世界経済では、新興国を中心に景気の拡大が続いているものの、そのペースはやや減速しました。サブプライムローン問題に端を発した世界的な金融・資本市場の信用収縮が実体経済にも大きく波及し、欧米諸国では景気の後退が鮮明になりました。

当社製品の主要需要先である自動車業界におきましては、国内販売についてはガソリン価格の高騰の影響などにより、引き続き前年をやや下回る状態が続いております。一方、国内生産は好調な輸出を背景に前年度よりも増加しております。海外における自動車販売は、米国においては景気悪化により不振が続いておりますが、アジア諸国を中心に新興国では比較的堅調に推移しました。

このような状況の下で、当社グループはグローバル市場で積極的な販売活動を行ってまいりました。輸送機器用クラッチ部門は、国内の主要顧客向けの売上が増加したものの、北米地域における販売減少の影響を受け前期比4.9%の売上減となりました。また、マイクロクラッチ・一般産業用クラッチ部門は、昇降機向けやモーター業界向けおよび自動車関連業界向けの需要が増加しましたが、OA業界向けが減少し前期比0.1%の売上減となりました。

結果として、当第2四半期連結会計期間の売上高は、前年同期比0.8%減の25,401百万円となりました。利益面につきましては、鋼材価格の上昇を一部販売価格に反映させていただいた結果などにより、営業利益は2.4%増の541百万円となり、為替差益の減少などにより経常利益は29.1%減の525百万円に、四半期純損益は投資有価証券売却益の計上などにより157百万円の四半期純利益となりました。

所在地別のセグメントの業績は、次のとおりであります。

①日本

売上高は自動車メーカーの国内生産増などを背景に前年同期比0.6%増の16,014百万円となり、前年同期比64.2%増の400百万円の営業利益となりました。

②北米及び南米

売上高は前年同期比3.0%減の5,764百万円となり、操業度の低下により12百万円の営業損失となりました。

③ヨーロッパ

売上高は生産高の増加などにより前年同期比6.0%増の2,356百万円となり、営業利益は109百万円となりました。

④アジア

売上高は為替の影響などにより前年同期比16.8%減の1,264百万円となりましたが、営業利益は前年同期比70.3%増の80百万円となりました。

なお、「連結経営成績に関する定性的情報」における前年同四半期増減率および前年同四半期の金額につきましては、参考として記載しております。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

(資産の部)

流動資産は、主に現金及び預金と売掛金の増加等により34,061百万円（前期末比2,706百万円増）となりました。固定資産は、主に有形固定資産の減価償却等により15,380百万円（前期末比19百万円減）となりました。その結果、総資産は49,442百万円（前期末比2,687百万円増）となりました。

(負債の部)

流動負債は、主に仕入債務の増加等により23,762百万円（前期末比1,148百万円増）となり、固定負債は、主に長期借入金の増加等により7,516百万円（前期末比1,107百万円増）となりました。その結果、負債合計は31,278百万円（前期末比2,256百万円増）となりました。

(純資産の部)

純資産は、主に為替換算調整勘定の増加等により18,164百万円（前期末比430百万円増）となりました。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

平成21年3月期の業績予想につきましては、第2四半期累計期間までの業績は売上増加により業績回復が予定通り進みましたが、米国発のサブプライム問題が金融危機として深刻になり、第3四半期以降における世界規模での景気減速を受け、自動車市場の大幅な縮小という環境悪化が進み、売上が大幅に減少する見込みであります。また、為替相場は円がドルやユーロに対して大幅な円高となり、為替による売上目減りと為替差損の発生が予想され、通期業績予想を修正いたします。

なお、業績予想に関する事項につきましては、本日平成20年11月13日公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

4. その他

(1) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

①固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分する方法により算定しております。

②税金費用の算定方法

法人税等の納付税額の算定に関しては、加味する加減算項目や税額控除項目を重要なものに限定する方法によりしております。

(2) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

①当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第12号）および「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第14号）を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

②第1四半期連結会計期間より、「棚卸資産の評価に関する会計基準」（企業会計基準第9号 平成18年7月5日）が適用されたことに伴い、評価基準については、原価法から原価法（収益性の低下に基づく簿価切り下げの方法）に変更しております。

なお、これにより、当第2四半期連結累計期間の営業利益、経常利益がそれぞれ14百万円減少し、税金等調整前四半期純利益が259百万円減少しております。

③第1四半期連結会計期間より、「連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い」（実務対応報告第18号 平成18年5月17日）を適用しております。

なお、これによる損益への影響額は軽微であります。

5. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成20年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,806	7,368
受取手形及び売掛金	16,151	14,628
有価証券	76	75
商品及び製品	3,533	3,524
仕掛品	2,677	2,995
原材料及び貯蔵品	1,619	1,613
繰延税金資産	265	273
その他	970	915
貸倒引当金	39	41
流動資産合計	34,061	31,354
固定資産		
有形固定資産	11,698	11,536
無形固定資産	152	162
投資その他の資産		
その他	3,578	3,751
投資損失引当金	50	50
投資その他の資産合計	3,528	3,701
固定資産合計	15,380	15,400
資産合計	49,442	46,755
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	13,569	12,638
短期借入金	8,417	8,153
未払法人税等	141	101
賞与引当金	365	412
その他	1,266	1,307
流動負債合計	23,762	22,613
固定負債		
長期借入金	6,379	5,427
繰延税金負債	478	418
役員退職慰労引当金	389	364
退職給付引当金	104	78
債務保証損失引当金	11	13
その他	153	105
固定負債合計	7,516	6,408
負債合計	31,278	29,021

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成20年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,858	1,858
資本剰余金	1,844	1,844
利益剰余金	14,124	14,176
自己株式	340	337
株主資本合計	17,487	17,542
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	343	509
為替換算調整勘定	33	589
評価・換算差額等合計	377	79
少数株主持分	299	270
純資産合計	18,164	17,733
負債純資産合計	49,442	46,755

(2) 四半期連結損益計算書
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	当第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)
売上高	25,401
売上原価	22,029
売上総利益	3,371
販売費及び一般管理費	2,829
営業利益	541
営業外収益	
受取利息	41
受取配当金	26
為替差益	89
その他	94
営業外収益合計	251
営業外費用	
支払利息	140
手形売却損	24
持分法による投資損失	69
その他	32
営業外費用合計	267
経常利益	525
特別利益	
投資有価証券売却益	88
その他	2
特別利益合計	90
特別損失	
たな卸資産評価損	244
特別損失合計	244
税金等調整前四半期純利益	371
法人税、住民税及び事業税	95
法人税等還付税額	42
法人税等調整額	128
法人税等合計	181
少数株主利益	32
四半期純利益	157

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) セグメント情報

〔事業の種類別セグメント情報〕

当第2四半期連結累計期間（自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日）

当社グループは、電磁クラッチ、機械・特殊クラッチの製造販売を主事業としている専門メーカーですが、当連結会計年度については、全セグメントの売上高の合計、営業利益および全セグメントの資産の金額の合計額に占める1セグメントの割合がいずれも90%を越えているため、事業の種類別セグメント情報の記載を省略しております。

〔所在地別セグメント情報〕

当第2四半期連結累計期間（自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日）

	日本 (百万円)	北米及び 南米 (百万円)	ヨーロッパ (百万円)	アジア (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1)外部顧客に対する 売上高	16,014	5,764	2,356	1,264	25,401	—	25,401
(2)セグメント間の内部売 上高又は振替高	4,191	243	0	403	4,839	(4,839)	—
計	20,206	6,008	2,356	1,668	30,240	(4,839)	25,401
営業利益	400	△12	109	80	577	△36	541

(注) 1. 国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。

2. 本邦以外の区分に属する主な国又は地域

(1)北米及び南米…米国、ブラジル

(2)ヨーロッパ…フランス

(3)アジア…マレーシア、中国

〔海外売上高〕

当第2四半期連結累計期間（自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日）

	北米及び南米	ヨーロッパ	その他の地域	計
I 海外売上高（百万円）	5,764	2,374	2,614	10,753
II 連結売上高（百万円）	—	—	—	25,401
III 海外売上高の連結売上高に占 める割合（%）	22.7	9.3	10.3	42.3

(注) 1. 国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。

2. 各区分に属する主な国又は地域

(1)北米及び南米…米国、カナダ、ブラジル

(2)ヨーロッパ…フランス、ドイツ

(3)その他の地域…マレーシア、中国等

3. 海外売上高は、提出会社の輸出高並びに本邦以外の国に所在する連結子会社の売上高の合計額（ただし、連結会社間の内部売上高を除く）であります。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

「参考資料」

前年同四半期に係る財務諸表

(1) 中間連結損益計算書

区分	前中間連結会計期間 (自 平成19年4月1日 至 平成19年9月30日)	
	金額 (百万円)	百分比 (%)
I 売上高		25,599 100.0
II 売上原価		22,126 86.4
売上総利益		3,473 13.6
III 販売費及び一般管理費		2,945 11.5
営業利益		528 2.1
IV 営業外収益		
1. 受取利息	92	
2. 受取配当金	18	
3. 為替差益	83	
4. その他	214	407 1.6
V 営業外費用		
1. 支払利息	107	
2. 手形売却損	24	
3. 持分法による投資損失	7	
4. その他	54	194 0.8
経常利益		741 2.9
VI 特別利益		
1. 固定資産売却益	29	
2. 債務保証損失引当金戻入	5	35 0.1
VII 特別損失		
1. 固定資産除却損	29	
2. 固定資産売却損	19	
3. 投資有価証券評価損	218	
4. 投資損失引当金繰入額	26	
5. 減損損失	12	
6. その他	15	321 1.2
税金等調整前中間純利益		455 1.8
法人税、住民税及び事業税	109	
法人税等調整額	324	434 1.7
少数株主利益		7 0.0
中間純利益		13 0.1